

宇田新太郎博士のエピソード

①「宇田新太郎君を憶ふ」 【大久保 謙】

(中略) やがて実験の報告書を担任の先生に提出する日が近づくと、サボった連中は気が気でない、或夜宇田君に頼んで彼の下宿で、彼のまとめた報告書を写させて貰って急場をしのぐ事になったが、宇田君は完成してみた彼の報告書を、机の上に置いた儘、活動写真(五十年前は映画などといふ言葉はなかったと思ふ)を見て来るよ………と言って出掛けてしまったのである。(出典:「宇田新太郎先生」p.55-p.56)

②盲目着陸実験に飛行に同乗して 【遠藤 義夫】

先生は一口に言えば、大変真面目、コツコツおやりになる方で、自分は何も出来ないが、水もぐりだけは三～四分もぐれ、人には負けない特技があるなんて、至極邪気満々子供っぽい程純真な方であった。それに大変屈託のない先生で、先生と話していると肩のこるようなことはなく、極めて気楽で、而も話好きであるから、一寸と思っても、つい長話になる。尚先生は一向かまわん人で、どんな場所でも、眠ろうと思うとすぐ眠ってしまわれる、全く磊落な方であった。併し事研究となると、こり性でとことんまでやらんと済まない人で、従って類は類をよくぶというか、先生の所には実験の好きな、而も上手な人が多く集まった。(出典:「宇田新太郎先生」p.63)

③「^{タカタマ}高擡・楯山時代の先生と研究室」 【西村 実】

八月一五日の終戦の日、いわゆる終戦の『玉音放送』を宇田先生以下全員で聞いた後、宇田先生から訓示があり、『不幸にして戦争に負けた。軽挙妄動を慎むよう、また諸君は今后どうやって生活するか、私としては諸君の就職についても眞剣に考える』という趣旨のことを言われた。当時血気盛んな学生は『こんな時に就職の話とは何なんだ』といきり立ったが、後になって宇田先生が冷静に事態を判断されたことに深く尊敬の念をいただいた。(出典:「宇田新太郎先生」p.80)

④「教授室での先生」 【安海 愛子】

先生は眞摯な研究者でしたが、とても大らかな御性格で神経質な方ではなかったので、たとえ御勉強中でも気むづかしいというようなことはなくいつも気樂にお話しかけのできるお方でした。それだけにおもしろいことも多く、「僕は顎が長いんでネクタイがよごれて困るんサ」などといとも無邪気におっしゃるので何ともいいようがなくつい笑ってしまいます。（出典：「宇田新太郎先生」p.86-p.87）

⑤同郷の宇田先生に師事して 【関本 秀男】

先生が研究室にお出になる時は実験白衣を着てこられ、常に理論と実践とを身をもってお示しになったお姿は今も尚脳裏に浮んで参ります。そうして研究はいつも全人類の平和の為にと心しておられたことをよく伺うことが出来ました。

先生はこのように研究一筋であられた反面、大学で季節の折々に催される教職員による親睦会の遠足、スキー、海水浴等には進んで参加され、遠足等では予めコースをよく下調べをされて、何時も先頭に立って進まれた御姿が目には浮かんで参ります。（出典：「宇田新太郎先生」p.71）

⑥「神奈川大学での宇田先生」 【長谷川 幹純】

私共にとって、研究室での輪講の時間が楽しみのひとつでございました。先生が過去に東北大学でなされた実験のこと、当時の弱電工学の状況、岡部金治郎先生のマグネトロンの発明のことなど、私共が教科書では知り得ない事柄が盛沢山に当事者からお聞きすることが出来たのですからこんな嬉しいことはありませんでした。とくに、先生が発明なされた八木宇田アンテナの発明とそれにかかわる後日談、酒田飛鳥間の通話実験、また、塩釜港におけるボートレースの実況放送に初めて超短波セットを使用した経験談、さらに、八ミリ映写機を使ってのインドにおける実験などのお話しには私共は夢中で聞いたものです。（出典：「宇田新太郎先生」p.92）